




にこえりレイプ!!!

DOJIN  
R18  
成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止



「おっ、MsのほごちゃんじゃんW」  
「まじかよwちっちえーwカワイイねえw」  
「ちよつと俺らに付き合わねえ?w」  
「悪い思いはさせねえよ?」

「イヤよっ。今、プライベートなんだから  
話し掛けないで!」  
変装をうっかり忘れた日に限って、こんなのに  
捕まっちゃうなんて…めんどくさい。

「あ…あんだ達こんな事して…っ  
タダじゃ済まない…わよ!」  
「あ?何言ってるんだ?」  
「言う気も起きないようにやりまくるに  
決まってるんだろw」  
「い…いやあああつ!」  
ウソ…どんどん男の人が集まってきて…



「あつー! やっ…やめえ! くひい!!  
なにコレ!? なにこれええええつ!!」

「いひひ、すげえなこりや」

「にこちゃん、オナニーもしたこと  
無かったのかなあ?」

「キモチイイだろお? ふひひw」

セクッ

セクッ

セクッ

セクッ

セクッ

セクッ

セクッ

セクッ

セクッ

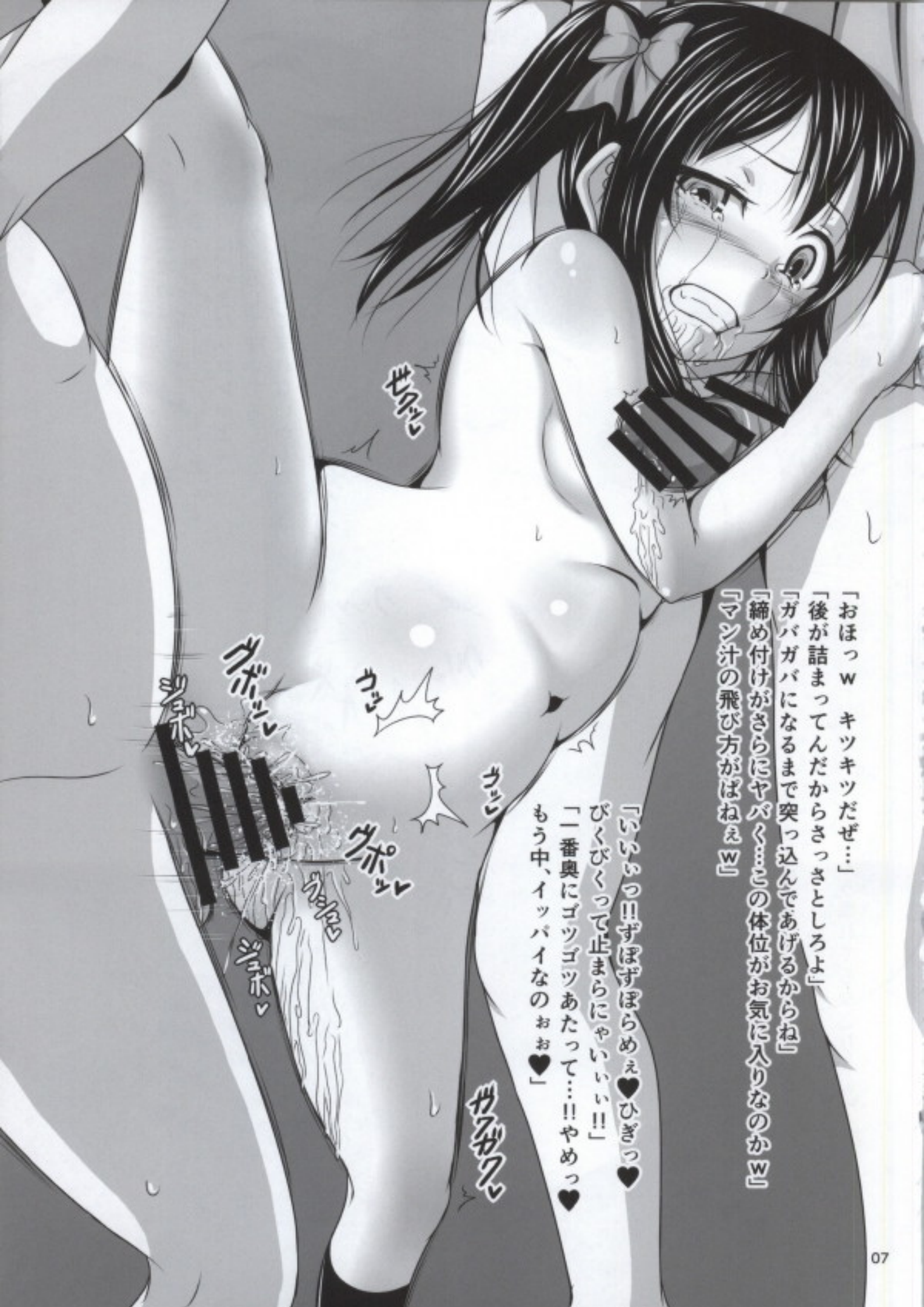
セクッ

「もうっヤメテエ!! 頭が変になるう!!」  
「まだまだw 身体にしっかり快感覚えさせて  
毎日弄らないと気が済まないようになるまでなw」  
「いやあああ!!」  
わたし…どうなっちゃう…の?」



「もう大人しくなったな。イカセすぎたか？」  
「口も小さいから吸い付きがヤベエ……」  
「一滴もこぼさず飲めよ？ そうしたらアソコを  
もっと激しく弄ってやるからな」  
「条件付けかよw」

…頭がボーっとして、何も考えられないよお  
気持ちよかったり、苦かったり、ヌルヌル  
ベトベト……  
お腹はもうタポタポ……すごい臭いが鼻から  
抜けてく……もう許して……



「おほっw キツキツだぜ…」  
「後が詰まってんだからさっさとしろよ」  
「ガバガバになるまで突っ込んであげるからね」  
「締め付けがさらにヤバく…この体位がお気に入りののかw」  
「マン汁の飛び方がばねえw」

「いいいっ!! ずぼずぼらめえ♥ひぎっ♥  
びくびくって止まらにやいいい!!」  
「一番奥にゴツゴツあたって…!! やめっ♥  
もう中、イッパイなののお♥」

「どうだ、二穴攻めは!?」  
「つーか、さっきまでオナニーもしたこと  
なかったのに、いきなりコレかよw」  
「しかもスゲー感じで喘いでるしだ」  
「こりやあもう戻って来れないかもな  
にこちゃん」

ゼッピン

ウッ

ウッ

ズグッ

ズグッ

ズグッ

ズグッ

「ああ♥お尻とアソコしゅごい♥  
子宮が中からも外からも潰されりゅ♥  
もっといっぱい穴穿うてえ♥突いてえ♥  
ずぼずぼもっとおおお♥」

「もう壊れてるなこりやw」



ウパキッパキッ

セツッ

セツッ

ウパキッ

ウパキッ

ウパキッ

ウパキッ

ウパキッ

「うへえwこいつフェラで完全に先っぽ飲み込みやがった！」  
「手で支えなくても落ちねえ！」  
「なんか回からアソコまで串刺しになってるみたいなの眺めだな」  
「息出れてないだろうに、いきまくってやがる…」  
「にこちゃんは苦しいのが好きな変態さんなんだねえ」  
「うげっ！ケツ穴から精液噴きやがったよ！」  
「このまま胃にザーメン流し込んで、また尻から噴かせてあげるね」



「こいつ…チンポ離そうとしねえ」  
「ザーメンの味がよっほど気に入ったんだなw」  
「夢中で吸い付いてきやがるな」  
「下の吸い付きもまだまだ元気だぜ」  
「…こんなロリ体系なのにエッチの天才かよ」  
「完全に性欲の虜になっちまったよ」

クポ

クポ

クポ

セクッ

フイ

クニ

クニ

クニ

クニ

クニ

「ぬるぬる…おいしい♥もっと飲みたい♥  
アソコのムズムズも止まらない…どんどん酷くなるのお  
もっと中に注いでえ♥」

「…この人数相手にして、まだ求めてくんのか…」  
「こっちがもう限界だ…」




「…はあ、さすがに動かなくなったな」  
「あれからさらに倍の人数追加だしなあ」  
「胃と子宮にザーメンばんばんに入ってるよ…  
妊娠確定だろコレ…どうすんだ？」  
「どーもしねえよバカ。放置してさっさと逃げるぞ」

「……せ…えき……もっとお♡」  
「やっぱりわたし…アイドルだあいすき♡」

あたしでアいた奴  
金買正産!!!





学校存続を直訴するために教育委員会に単独で  
乗り込んだのはよかったけど……  
ここのお偉方には悪い噂しか聞かないのを失念していた。

「学校を残したいなら……どうすればいいか分かるよね  
絢瀬絵里君？」

……私ひとり我慢すれば皆が喜ぶ結果になる。  
それなら……

「おとなしく言う事を聞いていれば  
学校存続なんてすぐだからね？」

「おっ、胸かなり大きいねえ」

「これはなかなか楽しいね、そうじゃないか？」

「お願いです。あんまり酷い事しないでください」

「ははっ、安心してよ。僕たちは女子高生の扱いには  
慣れているんでね」

どんだん人が集まってくる…逃げ出したい…  
でもここを我慢すれば学校は助かる。  
こんな事くらい…



「大きき、形、柔らかき、どれも満点ですなあ」  
「これは何発でもイけそうだ」  
「本番の分も残しておかないといけませんよ？」  
「ほら、少し口に含んで味に慣れておくんた、  
このあとたくさん飲み込むことになるんだからな」

「苦い…熱い…臭いもひどい…  
こんなのをこれから飲まされるなんて…  
でも…頑張らないと…学校が…」



「珍しく使用許可が下りたぞ!」  
「おお、これはラッキーですね。という事はこの娘は…」  
「あとの事は考えなくていいとのこと…」  
「じゃあたつぷり使って楽しませてあげようじゃないか」  
「そうですね、じゃあまずは通常の6倍の濃度から…」

注射…! いやっ! やめて!  
ああああ…打たれる度に熱く…!  
わかんない! もう…何がなんだかわかんないよお!




「イイっ♡気持ちいいいい♡あひっ♡  
もっとお奥…あ…突いてええ♡ひいいい♡  
なんでえ…お尻も…キモチいいのお!  
あああ♡両方とももっとお穿つてええ♡」

ズッザ♡

「効果できめんだな。いきなり積極的になった」  
「薬の過剰投与で頭も身体も暴走してるな…  
妊娠もしてないのに母乳噴いてるぞ」  
「またいき方が激しくなった…どこまで  
耐えられるかな」





「こりゃすごいな…これで感じてるのか」  
「薬のせいではとんどの刺激が快感に変わってるらしい」  
「放っておいたら手近な棒状の物でオナニー始めそうだな」  
「無言で自分の母乳飲みながら、フィストファックでイキまくる  
女子高生…普通じゃまずお目に出来ない光景だ」  
「動画と写真でしっかり記録しときますよ」

「…今度は連続で何人出来るかの実験か」  
「実験名目で集めた五十人はもう二周しました  
今二周目です。何人啜えても縮まりは変わらない  
はずです」  
「延々と公衆便所になれるわけか」

「あれだけユルユルだった穴がわずかな休憩で  
元に戻ってるなんて…」  
「身体ひとつであらゆるプレイに対応するための  
薬なんです」

「何人分だよ…これは」  
「結局四周ほど回りましたので二百人以上と言ったところです。  
全部出し切ったらまたレイプ開始します」  
「少子化対策の薬品実験…役得だがこりゃ体力的にキツいな」

クボレ

ゼキッ

ウヒツツ

ウリッ

グリッ

ゼキッ

グニャグニャ

ゼキッ

ゼキッ

「おええええええ！ゲボツ！お…やめえ…  
ガハッ！ゲボツ！ゲホッ…じ…ぬ…  
もう…あおおおおおっ！」

「うわ…すごいですね…中に何人いるのやら」  
 「薬で卵子大量生産させたうえに子宮は常に  
 精液袋だったからな…」  
 「まあ少子化対策には最適な薬ですな」  
 「…脳はもう融け過ぎて再起不能ですがね」

ガフガフ  
 ピッ  
 ピッ

グポッ

ピッ

グポ

グポ

グポ

グポ

グポ

「ハァハァ♥もつと…もつとお♥ザリメン頂戴♥  
 赤ちゃん…ザリメン袋で溺れちゃうくらい♥  
 あへっ♥もつとパンパンしてえ♥あああ♥  
 全身にぶっかけもイイ♥アツアツべちゃべちゃ♥  
 あははははっ♥もう学校なんてどうでもいい♥  
 ザリメンの方が気持ちイイし嬉しいの♥」

**TEMPLE**

<http://b.dfsite.net/RG09565/>